



本日の
プログラム

ロータリー財団月間に因んで

地区ロータリー財団委員会 カウンセラー 羽部 大仁 氏

新会員卓話 菊地 満祐 会員

本日は、簡単な自己紹介と当社の取扱商品である「しめ縄」についてお話をさせていただきます。私は、1975年12月24日生まれで46歳です。当社の所在地でもあります札幌市北区篠路で玉ねぎ農家の3人兄弟の長男として生まれ、地元の小中学校・札幌開成高校・日本大学工学部土木工学科を卒業し、札幌の田中組(株)に就職し、約8年土木の現場監督として勤務し、当社に入社し平成24年に代表取締役役に就任し現在に至ります。家族は両親・妻・長女(高校1年)・長男(中学2年)・次女(小学6年)の7人家族です。毎年2～3回は旅行やスキーに行ったりしております。当社は昭和58年10月に設立し今年40年目になります。事業内容は正月の「しめ縄」の製造・卸で北海道内のスーパー・ホームセンター等に納品しております。関係会社として、農業もしておりますので農事組合法人菊地農園・社会福祉法人新栄会新川北保育園があります。現在菊地農園は倉庫賃貸業が主な事業となっております。当社の「しめ縄」商品の90%は中国の工場生産されており、毎年5月～8月は商品の受入・組立。9月各店舗の仕分け作業。10月～12月仕分け作業・各店舗への出荷。1月～2月は「しめ縄」の大半が委託販売のため、商品が返品されてきますので数量確認をし、3月～4月は返品された商品の棚卸作業と、検品という年間サイクルです。

「しめ縄」の由来は、日本神話の「天岩屋戸(あまのいわやど)」と言われていました。天戸に閉じこもってしまった天照大神を外へと導き出した際、再び天戸に引きこもってしまわないように、「しめ縄」を張って入り口を塞いだというのが始まりで、以後神様が居る場所(神域)には「しめ縄」を張るようになったと言われていました。つまり、しめ縄は神域と私達が住む現世を隔てる結界の役割をするものと考えられており、神社の杜やご神木に「しめ縄」が張ってあるのはこのためです。正月に「しめ縄」を飾るのは、歳神様をお迎え、お祀りするためです。歳神様は五穀豊穡の神で、昔は歳神様をお迎えしておもてなしすることで、



その年を幸せに暮らせると言われておりました。その際、現世と神域を分けるために「しめ縄」を玄関に飾って、自分の家が歳神様をお迎えするのにふさわしい場所であることを示しており、家に入った歳神様の依り代となるのが神棚と鏡餅になります。よって神棚にも「しめ縄」を飾る必要があるのですが、現在は歳神様をお祀りする神棚には「しめ縄」を、歳神様をお迎えする玄関は「しめ飾り」を飾るのが一般的となっています。「しめ縄」は正月飾りではありません。神社で見てのとおり「しめ縄」は一年中飾られています。そのため、「しめ縄」は松の内が明けたからといって外す必要はありません。ただし、玄関などに飾った「しめ縄」は「しめ飾り」と同様に松の内が明けたら処分するのがよいでしょう。一方、「しめ飾り」は正月飾りなので、松の内の期間に飾ります。松の内とは、12月13日の事始め～1月7日(地域によっては1月15日のところもあります)までを指すため、「しめ飾り」もこの期間飾るのがよいでしょう。飾り始める日については、多くの方がクリスマス(12月25日)を過ぎてから、年末年始の準備に取り掛かるので13日から「しめ飾り」を飾っている方は少ないかも知れません(13日から飾っても問題はありません)。25日以降に「しめ飾り」を飾る場合に注意したいのは、29日は二重の苦(9) 労という意味で縁起が悪いとされていること、31日は一夜飾りとなり歳神様のお迎えにならないので避けた方がよいでしょう。今後ともどうぞよろしくお願い致します。